

2022年度 定期総会開催

二松学舎大学 父母会報



平成5年5月10日創刊
令和4年7月31日発行
(第117号)

二松学舎大学父母会
(本部・事務局)
東京都千代田区三番町6番地16
二松学舎大学学生支援課

題字は
故 観山貞広常吉先生書



二〇二二年五月二十八日(土)午後一時三十分、九段一号館中洲記念講堂において、二〇二二年二松学舎大学父母会定期総会が開催された。総会に先立ち、二松学舎大学文学部歴史文化学科主任・小山聡子教授による歴史文化学科開設記念講演「闇の古代・中世史―モノノケの跳梁(ちようりょう)」が行われた。

午後二時二十分、菅波久美子氏の司会により総会が開始され、細谷文雄父母会長、江藤茂博学長の挨拶の後、渡邊幹雄議長により議事を進行した。

第一号議案の二〇二一年度事業報告並びに決算については、審議の結果、原案のとおり承認された。

第二号議案の二〇二二年度役員選出については、会長に梁井直人氏、会計監査に菅波久美子氏と藤井由紀子氏が決定した。

第三号議案の二〇二二年度事業報告ならびに予算については、審議の結果、それぞれ原案のとおり承認された。

議事終了後、二〇二一年度で役員を退任した細谷文雄氏、千澤美千代氏、齋藤智子氏、渡邊幹雄氏の四名に江藤学長から感謝状が贈呈され、総会は終了した。



※父母会活動

「会長就任のご挨拶」

父母会会長 染井直人

五月の定期総会において、本年度の予算と事業計画についてご承認いただき、本会の新年度がいよいよスタートしました。

本年十月に二松学舎大学創立百四十五周年を迎えるこの年に、父母会活動にかかわることができ、すことを大変喜ばしく思います。

新たに父母会にご入会いただいた新入生のご家族の皆様には、お子様の本学へのご入学を心からお慶び申し上げます。長く猛威をふるい続けている新型コロナウィルスの影響が未だ残るなか、新入生の皆さんは期待とともに多くの不安を抱きながらの大学生生活のスタートであり、ご家族の皆様もご不安を抱えていることと存じます。

このような中、本会活動では学生の皆さんが充実した大学生生活を送るためにどう寄り添っていったらよいかを考えながら、様々な支援を続けております。詳しくは、総会資料をご覧ください。

コロナ禍の影響は、私たちの生活スタイルを変えるまでに至りました。しかし、それは新たな価値観の創造と行動につながったものでもありました。今年度は大学の授業も対面で行われることで始まりました。学生生活のスタートから、先生と友と触れ合える大学生活が戻ってきたわけです。この

久々のキャンパスライフで、父母会は受け継ぐ伝統を重んじ変わらなければならぬところを察知しながら、学生の皆さんに寄り添う支援をしてゆきたいと存じます。そのためにも、何よりも会員の皆様の深いご理解とご支援が必要です。しっかりと学生の皆さんと向き合いながらの活動を進めてまいりたいと存じますので、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

途中、様々な変化もあろうかと思いますが、これから一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

※新役員紹介 ※役員に就任して

※矢島 佳保里

この度、父母会役員をさせていただく事となりました国際政治経済学科一年の矢島でございます。

学生の皆さんが安心してキャンパスライフを楽しみ、より良い学校環境づくりのため皆様からのご意見を頂戴しながら微力ではございますがお手伝いさせていただきますと思っております。精一杯努めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

※中台 則子

コロナ禍の入学から二年が過ぎ、まだ感染拡大の懸念は拭きませんが、やっと本格的な大学生生活が始まったことに少しホッとしています。

大学の様子を知らたくて定期総会へ参加し、父母会役員の皆様が生徒の支援に丁寧に取り組まれる姿に感銘を受け、私もお役に立てたらと思いましたが、私もお役に参りますので、宜しくお願い致します。

※武石 智実

本年度より父母会役員を務めさせていただきますことになりました。大学という大事な時期に子供たちと関わる機会を頂きました事、嬉しく思

います。

まだまだ厳しい状況が続く中ですが子供たちがより良い学生生活を送れるよう、微力ではありますが精一杯努めて参りますので、どうぞよろしくお願

※鈴木 志保

二松学舎大学父母会は、学生生活を応援する存在として、大学と保護者との距離感の近さ、役員の皆様の温かい雰囲気を感じました。子供の母校に関わる貴重な機会をいただき大変嬉しく思います。会の活動を通して、学生生活のサポートに少しでもつながるよう、努めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

※小平 由紀子

長く続くコロナ禍にありますが、学生の皆さんがしっかりと感染対策をしつつも、楽しんで学生生活を送っている姿を多く拝見し感心しております。父母会の活動を知り、より充実した学生生活のためのお手伝いできたらと思います、先輩役員皆様のご指導をいただきながら、微力ではございますが務めさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

2022年度役員一覧

会長	染井 直人
副会長(学務局長)	五月女肇志
副会長	小平 修
会計監査	菅波久美子
	中台 則子
	鈴木 志保
広報	丸田 綾
広報	渡邊 昌子
会計監査・広報	藤井由紀子
会計・広報	吉沼 佳慧
	武石 智実
	小平由紀子
	矢島佳保里

ごあいさつ

N^o.2030 Plan

本年度の課題

理事長 水戸英則



コロナ禍の中、この四月から大学でも対面授業が開始されております。昨年四月からは新入生に一人一台PCの貸与を行う(本年は二年目)など、「学生の学びの機会」を確保してきました。さて、本学の長期ビジョン「N^o.2030 Plan」も五年目に入りますが、本年度は特に次の点に注力していきたいと考えています。

第一点は、「教学事務DX」の推進です。現行の教務支援システム「Live Campus」の機能をLMS (e-learning)を行う上で、学科教材配信や成績を統合管理するシステムへ移行・拡張し、学生ポータルサイトを活発化させることで、学生と教職員間におけるコミュニケーションのさらなる充実を図り、教育効果を一層発揮させて参ります。同時に、九段及び柏キャン

パスのインターネット通信高速化・大容量化ニーズへの対応として、毎年一〜二億円ほどの投資でICTネットワーク環境を大幅に拡充、教務・入試・キャリアセンター等で分散している関連データベースの統合も実現していきます。LMSの利用・普及が進めば、先生方においては、ご自身の研究活動や学生への教育・指導を効率的に進めることができるようになり、結果として第二点目の重点活動である「教育の質保証」をさらに推し進めていくことにつながります。(詳しくは三月発行の広報誌「學」六十一号二〜三ページをご参照ください。)

「教育の質保証」については、「N^o.2030 Plan」で目標に掲げる「二〇三〇年型教育体制の構築」の達成に向け、大学においては、このために必須のインフラである「新カリキュラム」を本年四月から導入致しました。このカリキュラムには、全入学生が履修可能な教養科目が、初年次に配置され、習熟度に応じた語学教育や数理・AI・データサイエンス教育のための授業科目等も包含されています。また、学長のもとで教務部門で検討してきた三ポリシーに基づく教育方針の展開、特に出口の学位授与方針である「ディプロマポリシー」に係る達成度については、学生が四年間で身につけた力、「学修成果」を可視化するツールである「ディプロマサブリメント」が活用できる段階になりました。

このように絶えず教育内容及び環境設備の見直しを図りながら、漢学塾以来の伝統である少人数教育を質的に、そして近代的にレベルアップし、真に学生に選ばれる大学であり続けることを目標としています。

二松学舎のいま

学長 江藤茂博



社会環境も含めて、この不安定な状況が続く中、二松学舎大学は、教育研究機関としての使命である、知を受け継ぎ、知を伝え、次の世代を育てることを、しっかりと続けております。これも、保護者の皆さまがたの、本学の教育研究に対する、変わらぬご理解とご協力の賜物と、教職員を代表しまして感謝申し上げます。

四月からは、文学部歴史文化学科の学生たちが、新しい仲間として学び始めました。また、この三月に卒業した文学部都市文化デザイン学科の学生たちは、就職率一〇〇%という記録を残

してくれました。

新型コロナウイルス感染症拡大のために、オンライン等の活用は実施してきましたが、留学生受け入れではかなり停滞を余儀なくされております。それでも、この十数年来、私が考えてきました、多様な学びを持つ本学のカリキュラムを複数学科として移し替えることと、学びの国際化は十分とは言えませんが、一応の達成を見ました。

本学の教育の特徴は、漢学塾由来の、学びの場での学生ひとり一人と向き合うことにあると思います。それは長く小規模校であったことから必然的に受け継がれてきた教育精神であり、今日も二松学舎に生きている学風です。また、それは大切に守るべきものだと思えます。

十数年前に提言した、歴史社会学部とその完成年度に歴史学部と社会学部に分離させる計画などの構想は、あまり理解されることなく、また、昨今の社会情勢から、私の中の時間と共に止まったままですが、二松学舎の漢学塾由来の教育精神が生き続ける以上、いつか、時代に合わせて動き出して欲しいものです。より良い教育がより良い社会を生むという信念を持つのが教育者だからです。より良い教育機関は、より多くの同志である学生を集め、大きな器を志向するものです。

何よりも、より良い社会を願う優秀な教育者を呼び集めて、本学は保護者の方々の期待にさらに応えたいと思います。



大学に入学して

文学部国文学科一年

小池 杏珠

私が最初に二松学舎大学を知ったのはだんだんと受験本番が近づいてきた頃だった。最終志望校を考えていた時、教職に就いている父がこの大学を薦めてきた。聞いたことのない大学名だったが調べてみると、どうやら国語学に秀でた学校らしい。元々国語の勉強がしたいと考えていたため志望校にするまでに時間はかからなかった。

無事入学した後、履修登録やサークル見学、長時間の電車移動に九〇分授業など高校の時とはまるで違う目まぐるしい生活に体調の優れない日もあった。

しかし古典、語学、漢文など様々な方向から自分の興味のある分野が学べるこの環境は貴重であり、講義を受ける中でさらに自分の学びたいことが明確化されていく。私は特に日本語学概論の発声・発音の仕組みや歴史をこと細かに学べる部分にひどく興味が惹かれ、今一番専門的に学んでいきたいと考えている。

大学に入学してから新しくバイトを始めたこともあり学業との両立を余計に考えなければならなくなってきた。私にはまだまだ課題が多く、体がついていけないこともあるかもしれない。しかし高校時代にはできなかった挑戦をたくさんしていきたい。



文学部歴史文化学科一年

佐藤 琢磨

歴史文化学科に進学してよかったと思う点として、何よりも「歴史について語り合える人たちと巡り会えたこと」が挙げられる。

小学生のころに戦国武将に興味を持ち始め、それからは様々な文献を読み、日本史の知識を蓄えていった。残念ながら中学、高校では歴史について深く語り合うことのできる友人には恵まれなかった。日本史の授業で習ったことを話し合う機会があったが、それも教科書に書いてあることの域を出ることはなく、教科書には載っていないマニアックな話をしたい私にとっては満たされない日々であった。しかし、この春から歴史文化学科に進学したことで、中学・高校時代には出会ったことのできなかった歴史好きの人たちと知り合い、語り合うことができた。中でも、「歴史上の推し」について紹介しあう時間は至福のひと時であった。私自身、普段よりも興奮して饒舌になつていたので覚えている。

これほど多くの歴史好きの人たちと巡り会うことができるのは夢にも思わなかった。「ここなら、私は今まで以上に歴史の知識を深めることができる。もっと歴史を好きになれる。」今からそう期待が膨らんでやまない。

大学に入学して

国際政治経済学部国際政治経済学科一年

大東 讓

感謝の気持ちを大切に、勉強やサークルなどたくさんの方に挑戦する。これが私の大学生活における最大の目標である。私は高校に入学するまで、将来どのような人生を送りたいかを真剣に考えたことがなかった。しかし高校生になってからは、自分が社会に対してどのように貢献できるかを漠然と考えはじめるようになった。そして、それを実現するために社会の仕組みを理解する必要があると考え、社会科学の分野を幅広く学ぶことのできる大学を探している。二松学舎の特徴である少人数での授業や科目の豊富さは自分がとても求めていたもので、日々恵まれた環境で勉強することができていると感じる。現在、私は都外から通っており、毎朝四時半に起きて通学している。このような生活が続けられるのは家族が支えてくれるおかげである。また、学校でも友人や教授、職員の方々と様々な人のおかげで充実した生活を送ることができているとつくづく思う。したがって、私はこの大学生活で色々なことに挑戦して、その経験を活かしてたくさんの方の役に立てる人材になりたい。

POP2022

九段祭POP 2022
ステージ発表 タイムスケジュール

11:30~11:50	アカササキカナル Voice of Nation
11:50~12:10	機村搬出・転換
12:10~12:30	ダンスカナル ALIAS
12:30~12:45	畳敷き
12:45~13:05	合気道部
13:05~13:10	転換
13:10~13:20	剣道部
13:20~13:35	畳上げ
13:40~14:40	NISHOヒア ~中州記念講堂に集合~



文学部国文学科三年
佐藤 亘

九段祭POP2022責任者を務めさせていただきました文学部国文学科三年の佐藤と申します。今年度も文化団体が日頃の活動の成果を発表する学内生向けの文化祭として六月十九日(日)に学生会執行委員会が主催となり、九段祭POP2022を九段キャンパスにて開催いたしました。「春雷く青春を告げる衝撃」というテーマ、「春を告げると言われる春雷。それは青春を告げる衝撃。コロナ禍によりなかなか一歩目を踏み出せない膠着した状態。それを打ち壊す春を作ろう。」というコンセプトを掲げ、九段祭POPに関わる方々が久しぶりの対面発表を存分に行えるようなそして皆様が楽しめるような行事にしたいと役員一同準備を進めてまいりました。

今年度は先ほども申し上げた通り、二年ぶりの対面開催を行うことができた。今年は先ほども申し上げた通り、二年ぶりの対面開催を行うことができた。今年度は天気にも恵まれ沢山の来場者の皆様にお越しいただきました。参加していただいた団体の皆様、九段祭POP2022に足を運んでくださった皆様のご尽力のおかげで今年度も無事九段祭POP2022を開催することができました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。来年度以降も役員一同団結してより多くの来場者の皆様に満足していただけるような九段祭POPを目標に精進していきたいと存じます。今後とも学生会執行委員会を何卒よろしく願います。

POP2022

きました。その中で参加された団体の皆様方も開催当日に最高の発表が行えるように準備をしている姿が多数見受けられました。また教室での発表や中州記念講堂でのライブは団体来場者という垣根を越えて楽しむことができたのではないかと存じます。また、学生会執行委員会では毎年恒例企画となっているピンゴ大会を始め、新たな試みとして九段キャンパス一号館全体を使用した「学校探検クイズ」や今後も使用するこ

新入生歓迎式典 2022



文学部国文学科三年
水口 愛子

新入生歓迎式典2022の責任者を務めさせていただきました、学生会執行委員会 会長の水口と申します。今年の新生歓迎式典2022のテーマは幸迎(こうげい)。「新生に幸せなキャンパスライフを迎えて欲しいという思いを込めて。」をコンセプトに、新生歓迎式典2022を開催いたしました。新型コロナウイルスの感染状況を学生会内で都度確認し、大学との協議を何度も重ね、二年越しの全対面開催

新入生歓迎式典2022

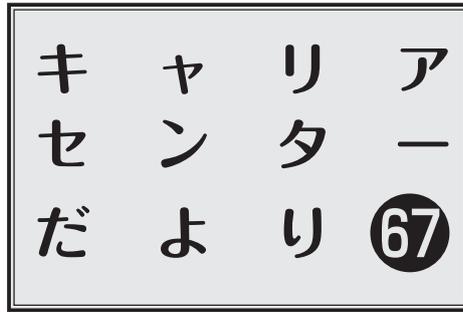
となりました。初めて対面でのイベントを運営する我々学生会執行委員会では『どうしたら新入生が楽しんでくれるのか、どうしたら新入生が「二松学舎大学に入つてよかった」と感じてもらえるイベントになるのか』を色々と考え、話し合いを重ねました。各団体の良いところをどうすればより新入生に伝わりやすいかを考えながらパンフレット「一期一会」を作成したり、来場者として来て下さった新入生にネコ松のイラストが描かれたステンレスボトルを配布したりしました。特に、ネコ松のイラストが描かれているステンレスボトルは、新入生だけではなく、在校生や大学の職員からもとても人気でした。新生歓迎式典2022は、反省する点は多くありますが、成功に終わったと思います。また、下級生の成長もこの新生歓迎式典2022で見ることができたと思います。今まで色々と教えてきた後輩たちが、一つの物事を多方面から見るための視点をもち、一生懸命に動いてくれたからこそこの新生歓迎式典が成功したのだと思います。六月に行われる「九段祭POP」、そして十一月に行われる創縁祭2022では、一年生も入り、新しい学生会執行委員会として動くこととなります。今後の行事が成功するように、応援していただけると幸いです。

●インターンシップが変わります

「インターンシップ」とは、学生が就業体験をすることです。キャリア形成において、大変有効な取り組みです。あまり意識されていませんが、教職課程に介護等体験や教育実習が必須となっていますが、どちらも広い意味ではインターンシップにあたります。近年では企業で体験するインターンシップが一般的で、中学生や高校生でも体験できるプログラムもありま

す。 本学では、正課外になります。三年次生を対象に「インターンシップ特別講座」を開講し、約半年間の時間をかけて事前・事後の学修と企業における就業体験を組み合わせて学生諸君の就業意識形成支援を行っております。

さて、このインターンシップですが、文部科学省・厚生労働省・経済産業省による合同の基本的な考え方が本年六月に改正されました。所謂「三省合意」の考え方が変わったのですが、これまで企業が実施していた「ワンデイインターンシップ」はインターンシップとして定義せず、オープン・カンパ



ニーとすることとなりました。

では、インターンシップの定義は、というと、①必ず就業体験を行う。②実施期間（学部の場合五日間以上）の半分以上を職場で。③職場の社員が学生を指導。④学部三・四年次の長期休業期間に実施。となりました。

このように定義が改正されると、インターンシップを実施する企業は、これまで以上のコストが発生することになります。その影響は、既に一部では顕在化してきていますが、インターンシップから直接採用選考に移行するなどの変化に繋がります。インターンシップを採用選考に用いてはいけない、とされていますが罰則はありません。したがって、学生諸君の就職活動も変わってくるということになります。所謂「就活ルール」も二四卒以降は未定の状況です。

社会のニーズに伴い、就職活動も変化していくと予想されます。キャリアセンターでは、そうした変化をこれからもタイムリーにお伝えしてまいります。

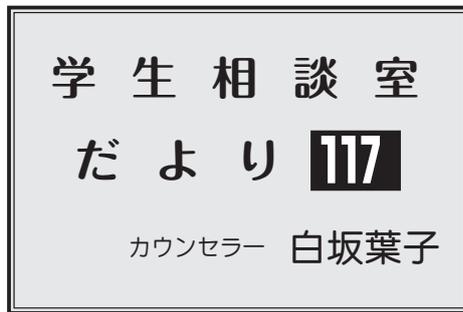
四月から対面の授業を基軸に学生生活がスタートしています。このことについての思いや反応は十人十色で、「やつと本来の学生生活ができる」という声も、「対面になつてしんどい」という声も聞きます。ただ誰もが同じように、

日常を変えていかななくてはならない中に置かれています。へ大学はもともと通学して対面で授業を受けるのが当たり前」という考えや声

明が強くなつてしまふと、オンライン生活に適応してきた日常から今度は対面中心に適応しなかつたという経験の独自さや、そこにまつわる複雑な思いは、自分にも他人にも聞こえにくくなつていきま

す。「当たり前」によつて見過ごされてしまう部分の声は、そこに耳を澄ませてみないと聞こえないのです。

出来事を相手がどのように感じて体験しているのかは、尋ねてみないとわかりません。また、尋ねられてみて初めて自分の思いに気づくこともあります。「最近どんなふうに過ごしてる?」「あなた



はそれについてどう思っているの?」と、ほんの少しでも気持ちや言葉を出せるスペースが作れたら、そこで初めて存在を許される思いもあるでしょう。現実では、自分の思いと無関係に適応しなくてはならないことがたくさんあります。けれどその時、「本当はこう思ってるんだけど、今はこつちで頑張っているんだ」ということを知ってくれている

人がいるだけで、随分世界の居心地が変わるように思います。 また、相手の声に耳を傾け、尋ねようとする思いやりや温かみが、そうしようとしている自分自身にも同じように向けられてほしいと願います。日々「やつて

当然「そうするべき」とこなしていることの後ろに、決して無視できないその人の苦労や努力があることは、大人も子どもも同じです。それはやはり、語られ、聞かれる価値のあることだと思つていきますし、学生相談室ではそのような機会を作っていけたらと思つて

2021年度決算の概要

概要

2021年度二松学舎大学父母会の会員数は、2021年度入学者文学部477名・国際政治経済学部244名計721名、文学部・国際政治経済学部編入学生（3年次生）9名を新たに会員として迎え、2021年5月1日現在3,013名である。

2021年度は予算総額43,314,236円（前年度からの繰り越し金を含む）で、2021年5月22日（土）に行われた定期総会で承認された事業計画に基づき諸事業を推進してきた。

以下にその事業の概要を記載する。

1. 【地区別父母懇談会】

2021年度の地区別父母懇談会は、香川・鹿児島・青森・茨城・島根・新潟・秋田・東京の全国8会場で開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、対面での実施は中止を余儀なくされ、7月17日（土）九段校舎からのオンライン配信により実施した。

例年、各会場には、大学から学長、副学長、文学部長、国際政治経済学部長、学務局長、文学部・国際政治経済学部各教員はじめ学務局（学生支援課・教務課及びキャリアセンター就職支援課）の職員が出席し、懇談を通して大学教職員と会員（父母）との相互理解を図ると同時に、大学の現状、学生の大学生活及び就職の実情、単位修得等勉学の状況及び父母会の活動について説明を行っていた。

2. 【教育研究振興助成】

2021年度の教育振興助成は、海外研修学生引率者助成に関しては、語学研修が新型コロナウイルス感染症の影響で、中止となったため、助成は行わなかった。

他に、「ES実践講座」・「日本語検定」・「SPIテストセンター対策講座」等への助成を行ったほか、新入生教育助成として『学生生活スタートブック』の冊子を購入し配布した。

3. 【課外活動助成】

書道部に、学外展ポスター制作費として助成を行った。
学生顕彰として、11名の学生・1つの団体に奨励金を支給した。助成は、「課外活動団体助成費取扱い要領」及び「学生顕彰取扱い要領」に基づき、実施している。

4. 【大学行事等への助成】

新型コロナウイルス感染症の影響で、新入生歓迎式典〈4月〉はオンライン開催のため、例年の軽食の助成に替え、各団体へ消毒用品を支給した。

また創縁祭もオンライン開催のため、学生会予算内で実施できたことから、助成は行わなかった。

5. 【卒業記念パーティー】

3月16日（水）に卒業パーティー（ホテルグランドパレス）を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、卒業パーティーが中止となった。

代替措置として、卒業生全員に、多機能ペン・一人当たり6,000円のアマゾンギフト券、ばたばた付箋を贈呈した。

6. 【卒業記念品】

卒業記念品として卒業アルバムを贈呈する。

7. 【奨学金】

学生の資格・能力取得・育英を目的に、指定した資格取得や教員・公務員等各種採用試験合格者等63名に対して奨学金を支給した。

8. 【弔慰金・災害見舞金】

2021年度の弔慰金・災害見舞金については、会員（父母）5件に對し行った。「父母会弔慰金並びに災害見舞金取扱い要領」に基づいて実施している。

9. 【父母会報の発行】

2021年度は、第113号（2021年7月31日）、第114号（2021年10月20日）、第115号（2021年1月20日）、第116号（2022年3月31日）の計4回発行した。

10. 【外国人留学生支援に関する助成】

新型コロナウイルス感染症の影響で、外国人留学生との懇親会は開催できず、助成は行わなかった。

【特別事業費】

1. 【営繕助成等】

観葉植物設備（九段1号館・3号館・4号館のエントランスや共用スペースに配置及び手入れ等）補助・大学施設の補修に対する助成をした。

2. 【就職指導支援費】

キャリアセンターの就職支援活動に対して助成した。

3. 【事業積立金】

事業積立金は、法人・大学の記念事業推進に協力するため、1993年度より特別会計として積み立てを開始し、周年事業等の際に予算計上・執行してきた。

4. 【創縁祭参加費】

創縁祭の参加経費（無料休憩所）。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため創縁祭への参加は中止とした。

5. 【食育に関する助成費】

例年、二松学舎松茶会（同窓会）と共同で、学生食堂で「100円朝食」を実施してきた。2020年度は新型コロナウイルスの影響で食堂が閉鎖となったことから実施しなかったが、2021年度は、学生応援ランチを実施し、費用の一部を助成した。

【予備費】

2021年度は、附属高校野球部の甲子園出場祝金（夏・春各60万円）の寄付、父母会備品としてデジタルカメラとネームプレート、腕章を購入した。

○〈学生金庫基金〉

現金が緊急に必要となる学生のために、1回につき1万円を無利子で貸し出し（貸し出し期限1カ月）便宜を図っている。

○〈特別会計 事業積立金〉

父母会として二松学舎創立150周年事業にむけて、事業積立を行った。

収入の部

(単位:円)

項目	予算額①	決算額②	比較増減①-②	記 事
1 繰越金	13,793,236	13,793,236	0	前年度繰越金
2 父母会費	29,020,000	29,020,000	0	新入学生4万円×(文学部477名+政経学部244名)編入学生2万円×(文学部5名+政経学部4名)
3 助成費	500,000	0	500,000	大学からの卒業パーティ助成
4 雑収入	1,000	494,855	△493,855	学生金庫（一部）、受取利息等
合 計	43,314,236	43,308,091	6,145	

支出の部

項目	予算額①	決算額②	比較増減①-②	記 事
1 地区別懇談会費	3,300,000	1,054,625	2,245,375	オンライン地区別父母懇談会資料作成・発送費用
教育研究振興助成				
教員の海外研修助成費	600,000	0	600,000	新型コロナウイルス感染症のため、中止
海外研修引率者助成費	500,000	0	500,000	新型コロナウイルス感染症のため、中止
2 就職指導支援経費	1,000,000	442,040	557,960	基礎学力検査・一般常識模試等キャリアセンターの就職指導助成
新入生教育助成	200,000	198,000	2,000	「学生生活スタートブック」等購入経費900部
小 計	2,300,000	640,040	1,659,960	
課外活動助成				
課外活動活性化助成費	500,000	0	500,000	新型コロナウイルス感染症のため、課外活動を制限したため助成せず
3 課外活動団体助成費	500,000	60,000	440,000	課外活動団体への助成・全国大会出場助成・学外発表会助成等
学生顕彰費	400,000	80,000	320,000	個人・団体の大会優勝者など大学で推薦する者への表彰費用助成
小 計	1,400,000	140,000	1,260,000	
4 大学行事等への助成費	1,200,000	116,906	1,083,094	新歓式典・学園祭など大学行事・学生会主催行事への助成
5 卒業記念パーティー	7,600,000	7,215,520	384,480	卒業パーティー運営経費(2021年度は卒業記念品)
6 卒業記念品	3,700,000	3,672,900	27,100	卒業アルバム作成経費
7 奨学金	4,000,000	4,150,000	△150,000	父母会の「成長支援型(資格・能力取得育英)奨学金」63名
8 慶弔費・災害見舞金	200,000	50,000	150,000	学生・父母及び専任教員の死亡に対する供花料及び災害見舞金5件
会報発行				
印刷・制作費	1,200,000	844,458	355,542	父母会報年4回発行、112～116号
発送費	1,400,000	953,500	446,500	会報発送112～116号
小 計	2,600,000	1,797,958	802,042	
10 外国人留学生支援に関する助成費	300,000	0	300,000	外国人留学生の学習活動等への支援
事業費合計	26,600,000	18,837,949	7,762,051	
11 通信費	650,000	529,991	120,009	総会資料等発送費、はがき・切手等
12 印刷費	650,000	647,576	2,424	定期総会資料の印刷・製本、返信はがき・封筒等の印刷費
13 会議費	700,000	202,734	497,266	定期総会・役員会等
14 交通費	380,000	65,840	314,160	役員会等へ出席する役員の交通費
15 消耗品費	100,000	1,154	98,846	事務用品等購入経費
16 雑費	80,000	68,660	11,340	振込手数料、その他
運営費合計	2,560,000	1,515,955	1,044,045	
1 営繕助成費	300,000	300,000	0	学生施設の緊急を要する補修等及び観葉植物設置補助
2 就職指導支援経費	2,500,000	557,576	1,942,424	キャリアセンターの就職指導(キャリアカウンセラー等委託費)助成
3 事業積立金	2,000,000	2,000,000	0	大学における特別事業への支援のための積立
4 創縁祭参加経費	180,000	0	180,000	創縁祭はオンライン開催のため父母会は参加せず
5 食育に関する助成費	550,000	302,200	247,800	学生応援ランチ200円×1,511食分
予 備 費	8,624,236	1,239,330	7,384,906	附属高校野球部甲子園出場祝金、デジタルカメラ他
合 計	43,314,236	24,753,010	18,561,226	
差引残高(次期繰越金)	0	18,555,081	-	

2022年度予算の概要

【経常費】

1. 〈地区別父母懇談会〉

2022年度の地区別父母懇談会は、現今の新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、7月頃に九段キャンパス中洲記念講堂にて、新型コロナウイルス対策を行ったうえで、対面式の懇談会を実施し、同時にライブ配信を実施することとし、地方の父母の視聴もできるようにしたい。

内 容

- ・大学の現況報告
- ・学生生活・学習状況・就職状況についての説明
- ・個別相談等
- ・その他

2. 〈教育研究振興助成〉

- (1) 教員の海外研修に対する助成
教員の海外研修旅費の一部を助成する。
- (2) 海外研修学生引率者助成
2022年度も中国語圏・英語圏・韓国語圏での語学研修が予定されているので、その旅費の一部を助成する。
- (3) 就職指導支援経費
キャリアセンターが行う学生の就職活動支援事業に助成する。今年度は、「SPI対策講座」「日本語検定」「就職筆記対策」「就職活動中の支援」の助成をする。就職課程センターで実施する各種講座についても支援を行う。
- (4) 新入生教育助成
大学で発行している学生生活の手引『キャンパスライフ』を補完するものとして、『学生生活スタートブック「学生生活は危険がいっぱい2022年度版」(能登印刷株式会社)を購入し、新入生全員に配布する。

3. 〈課外活動助成〉

- 学生のクラブ・サークル等課外活動の実施に伴う経費の一部を助成する。
- (1) 課外活動活性化助成
課外活動団体の練習時間の延長、及び休日に行う対外試合等によるスクールバスの運行等経費の一部を助成する。
 - (2) 課外活動団体助成
クラブ・サークル等課外活動団体の活動費(全国大会出場経費の一部、学外発表会経費の一部等)を「課外活動団体助成費取扱要領(内規)」に従い、助成する。
 - (3) 学生顕彰
ボランティア活動等の社会活動、国際交流、部活動で特に顕著な業績が認められる団体並びに個人を表彰するとともに奨励金を支給する。

4. 〈大学行事等への助成〉

学生団体が主催する「新入生歓迎式典」「学園祭(創縁祭)」等に経費の一部を助成し学内の活性化を図る。

5. 〈卒業記念パーティー〉

2022年度卒業パーティーを開催する。
※新型コロナウイルス感染症の状況により卒業記念パーティーを中止する場合には、代替措置として記念品を贈呈することとした。

6. 〈卒業記念品〉

卒業記念品として卒業アルバムを卒業生全員に贈呈する。

7. 〈奨学金〉

- 下記の奨学金を給付する。
二松学舎大学父母会成長支援型(資格・能力取得育英)奨学金
- 【対 象】** 奨学金の受給資格は、大学の正規課程に在籍する学部生とし、次の各号のいずれかに該当する者とする。
(1) 公立学校教員採用試験合格者
(2) 公務員試験合格者
(3) 父母会が指定した資格の取得者
- 【給付額】** 3万円～15万円(取得した資格や合格した試験の難度に応じて給付額を設定)
- 【対象学年】** 1～4年次
【申請時期】 当該年度10月
【他制度併用の可・不可】 可

8. 〈弔慰金・災害見舞金〉

「父母会弔慰金並びに災害見舞金取扱要領(内規)」に従い、会員(父母)・学生・専任教職員の死亡に対し弔慰金または供花をもって弔意を表す。さらに、火災や自然災害等で学生の自宅やアパート等が被災した場合は、災害の軽重に応じて見舞金を支給する。

9. 〈父母会報の発行〉

大学・父母会の現状、学生生活の状況を会員に伝えるための機関紙「父母会報」を、年間4回発行する。

10. 〈外国人留学生支援に関する助成〉

外国人留学生の支援に関する活動は、1999年度から父母会事業の一環として位置づけ実施している。具体的には、留学生との交流・親睦を図ることを目的とした研修旅行(日本文化探訪プログラム)や、親睦会費用の一部を助成する。

【特別事業費】

1. 〈営繕助成等〉
学生食堂等に観葉植物を設置する。校舎等における緊急を要する補修等に助成する。
2. 〈就職指導支援経費〉
キャリアセンターが行う学生の就職活動支援事業に助成する。
3. 〈事業積立金〉
事業積立金は、法人・大学の記念事業推進に協力するため、1993年度より特別会計として積み立てを始め、周年事業等に予算執行を行ってきた。

2022年度は、200万円を計上する。

4. 〈創縁祭参加経費金〉

本学学園祭「創縁祭」に父母会として無料喫茶ルームを運営するため、コーヒー、紅茶及び茶菓等購入費用を計上する。

5. 〈食育に関する助成費〉

2016年度から実施されている「100円朝食」に代わり、昨年度から実施されている学生応援ランチ(今年度は弁当)に助成する。

◇ 〈学生金庫基金〉

現金が緊急に必要となった学生のために、1回につき1万円を無利子で貸し出し(貸し出し期限1カ月)便宜を図っている。本年度もこの制度を継続する。

収入の部

(単位:円)

項 目	予 算 額	備 考
前年度繰越金	18,555,081	
父 母 会 費	31,400,000	新入学生40,000円×776名(文学部521名+政経学部255名) 編入学生20,000円×18名(文学部10名+政経学部8名)
助 成 費	500,000	大学からの卒業パーティー助成
雑 収 入	1,000	受取利息
合 計	50,456,081	

支出の部

(単位:円)

項目	予算額	備考
1 地区別懇談会費	3,300,000	ウェビナー運営費・資料印刷費等
2 教育研究振興助成		
教員の海外研修助成費	600,000	教員2名の海外研修費等の一部助成
海外研修引率者助成費	500,000	海外語学研修学生引率教員の旅費の一部助成
就職指導支援経費	1,000,000	一般常識模擬試験・論文文模範試験等の助成
新入生教育助成費	200,000	「学生生活ハンドブック」購入経費
小 計	2,300,000	
3 課外活動助成		
課外活動活性化助成費	500,000	課外活動実施に伴う経費の一部助成
課外活動団体助成費	500,000	課外活動団体への助成、全国大会出場助成、学外発表会助成等
学生顕彰費	400,000	大会優勝者など(個人・団体)
小 計	1,400,000	
4 大学行事等への助成費	1,200,000	・大学行事及び学生会主催行事への助成 ・新入生歓迎式典・学園祭
5 卒業記念パーティー	7,600,000	卒業パーティー運営費
6 卒業記念品	3,700,000	卒業アルバム
7 奨学金	5,000,000	
8 弔慰金・災害見舞金	200,000	学生・父母及び専任教職員の死亡に対する供花料及び災害見舞い金
9 会報発行		
印刷・制作費	1,200,000	父母会報年4回発行
発送費	1,400,000	
小 計	2,600,000	
10 外国人留学生支援に関する助成費	300,000	外国人留学生の学習活動等への支援
事業費合計	27,600,000	
11 通信費	650,000	総会資料発送費・はがき・切手等
12 印刷費	650,000	定期総会資料印刷、封筒印刷
13 会議費	700,000	定期総会・役員会等会議費
14 交通費	380,000	役員会出席役員の交通費
15 消耗品費	100,000	事務用品費
16 雑費	80,000	振込手数料等
運営費合計	2,560,000	
1 営繕助成費	300,000	学生施設の緊急を要する補修等及び観葉植物等設置補助
2 就職指導支援経費	2,500,000	
3 事業積立金	2,000,000	
4 創縁祭参加経費	180,000	
5 食育に関する助成費	540,000	学生応援ランチ(200円×30食×90日)授業日のみ実施
予備費	14,776,081	
合 計	50,456,081	

2022年度 二松学舎大学父母会定期総会議事録

日 時：2022年5月28日(土) 13:30～15:30

会 場：九段1号館地下2階 中洲記念講堂

講 演：「闇の古代・中世史—モノノケの跳梁(ちょうりょう)」

小山 聡子先生(文学部歴史文化学科主任)

出席者：本年度会員数 3,030名

委任状 1,063名

出席者 66名 合計 1,129名

大学側：江藤学長、福島副学長、中山副学長、五月女学務局長、瀧田文学部長
佐藤国際政治経済学部長、飛田教学事務部長、中原教学事務部副部長、
三島学生支援課長、石田学生支援課員

1. 開会の辞 司会 菅波久美子氏

司会者から「本日総会時の会員数は、3,030名であり、父母会会則第9条により委任状を含めて606名の出席が必要であること、本日の出席者は66名、委任状は1,063名、合計1,129名であることから本日の総会は成立する旨の説明があった。

続いて、細谷文雄父母会長、江藤茂博学長からそれぞれ挨拶があった。

2. 議長指名

司会者から、総会の議長は父母会運営細則により、会長または会長の指名する者となっており、会長から渡邊幹雄氏が指名されているので、渡邊議長のもとで議事を進行させたい旨の説明があり、承認された。

3. 書記・議事録署名人指名

渡邊議長が書記及び議事録署名人として次の各氏を指名した。

書 記 渡邊昌子氏

議事録署名人 藤井由紀子氏、丸田綾氏

4. 議 事

◇第Ⅰ号議案〈2021年度事業報告並びに決算〉

細谷会長から、議案書に基づき概要説明があった。続いて齋藤会計監査・菅波会計監査担当役員から監査報告が行われた。審議の結果、原案のとおり承認された。

◇第Ⅱ号議案〈2022年度役員選出〉

渡邊議長から、会則第6条・9条及び父母会運営細則第3条に基づき、総会において役員(会長・会計監査)を選出することとなっているとの説明があった。

渡邊議長から大学側に候補者の氏名を発表してもらうのが慣例との説明があり、大学側(五月女学務局長)から議案書の通り次の各氏が推薦された。

会 長 染井直人氏

会計監査 菅波久美子氏、藤井由紀子氏

渡邊議長が大学側から推薦された各氏について出席の会員に諮ったところ異議なく承認された。続いて染井会長より就任の挨拶があった。

◇第Ⅲ号議案〈2022年度事業計画並びに予算〉

染井会長から、議案書に基づき概要説明があった。審議の結果、原案のとおり承認された。

議事終了後、下記の退任役員へ江藤学長から感謝状が贈呈された。

細谷文雄氏、千澤美千代氏、齋藤智子氏、渡邊幹雄氏

5. 閉会の辞

司会 菅波久美子氏

◇意見交換会

事前に寄せられた質問・意見に対し五月女学務局長から回答を行った。

その後、中洲記念講堂内で、希望する参加者・父母会役員とで意見交換を行った。

2022年5月28日

議 長 渡 邊 幹 雄 印

議事録署名人 藤 井 由 紀 子 印

議事録署名人 丸 田 綾 印

書 記 渡 邊 昌 子 印

2022年度二松学舎大学父母会定期総会 御質問・御意見へのご回答

(問) 学食の混雑で時間内に食べられない。父母会で何かしてあげられないでしょうか？

(答) 父母会及び松苓会（同窓会）の助成を頂き、「学生応援ランチ（弁当）」を提供しています。お困りの状況を詳しく観察し、更に拡充することができないか、検討してまいります。

(問) 学生ロッカーの設置を大学へ働きかけてほしい。

(答) スペースの制約から、全ての学生分は確保できないのが実情です。ある程度の学生分を確保するよう共用ロッカーを設ける場合には、学生間の公平性やその管理をどうするかが問題となっており、実現に至らず申し訳なく思います。こうした問題を解決できる製品や技術、管理・運営方法の検討を進めてまいりたいと考えています。

(問) 総会后、学年ごとで集まりほかの父母の方と直接話す機会を作ってください。

(答) 総会後の意見交換会で、お子様の学年ごとに集まっていただき、役員・集まった方々との意見交換を行っていただく予定です。

(問) 履修登録で春と秋セットの教科で春はとれず秋のみになった。相談にも行ったが、20日の再登録ではその前の授業が欠席扱いになるとのことで登録しなかった。結局秋だけ受けるということになるのでしょうか？

(答) 履修登録に際し、極力抽選が発生しないよう時間割・教室割り当てに十分検討・調整を行っていますが、校舎のスペースの関係からどうしても抽選登録となる科目が発生してしまい、申し訳なく思います。都心の校舎で4年間の学びを実現するための方策ですが、引き続き検討・調整を重ねてまいります。

同名称でABがある科目は、より学びが深まるという点から、春と秋学期両方履修することが望ましいのですが、本学では半年の学期で授業が完結するカリキュラムで、秋学期の授業のみ履修し単位修得が可能です。秋学期のみ受講するのをやめたい場合は、秋学期開始前に取り消すことが可能です。

(問) 図書館の本を増やしてほしい。

(答) 本学の附属図書館では、毎年約6千冊程度新たに購入しています。現在約36万8千冊を所蔵しており、同規模の大学と比べても、決して見劣りしない規模となっております。なお、研究で使用する本が図書館にない場合、購入希望図書カウンターで申請し、審査の上、購入しております。

(問) コロナ禍での対面授業は、教室の密な状況や電車通学でかなり不安を感じている様子。対面とオンラインのハイブリッドを希望する。

(答) 大学としては、「通学制の大学」として、教育の質を維持し、対面授業による教員と学生の意見交換、学生同士の意見交換、多様な背景を持つ学生同士の交流で、学びの定着を図り、社会で通用する親和力・行動持続力といった能力を養うことを考えています。

社会的に新型コロナウイルス感染症の蔓延防止対策として、厳しい人数制限が課される状況であれば、対面とオンラインのハイブリッドや完全オンライン授業等が必要ですが、現状では、社会全体として、人数制限の緩和、人流の許容がなされているため、対面授業を実施して参ります。

(問) コロナ禍に伴うリモート授業を導入するなら、早めに知らせてほしい。

(答) 新型コロナウイルス蔓延防止対策として、これまでリモート授業を導入する際、政府・自治体等の新型コロナウイルス感染対策に関する指導や基準を詳細に情報収集・検討するとともに、学生の下宿の準備や定期購入など、通学準備に要するリードタイムが十分とれるよう検討を進めて参りました。しかし政府・自治体の指導や基準が直前まで定まらなかったり、大学に対する感染対策の要請も曖昧なことが少なくなく、結果としてリモート授業導入のご連絡が遅くなり、ご迷惑をお掛けしたかとも受け止めています。現在はワクチン接種やPCR検査体制の充実などのほか、病床使用率を重点とするなど、感染対策の充実に加え、制限を加える際のトリガー・基準もはっきりしてきたと考えております。引き続き政府・自治体等の新型コロナウイルス感染対策に関する情報収集に努め、十分なリードタイムを確保するようにいたします。

(問) 先生方に対し、授業内容、課題の出し方の再検討を願う。事務局も管理をしてほしい。

(答) オンライン授業中心となった初期の期間に、課題やレポートが集中し、学生に対し過重な負担となった事例が少なくなかったことは、承知しております。そうした課題付与に対する学生の声を踏まえ、先生方で構成される教務委員会や学内諸会議で検討していただき、各学部で改善を図ってきたところです。

事務職員サイドでも、学生のアンケート調査でそうした施策対応の効果をモニタリングしています。直近のアンケート調査では、初年次・高学年においてもIRコンソーシアム平均に比べ「授業がつまらない」と感じる割合が低く、2020年度は同平均を下回り4割弱まで低下した「学生生活が充実している」という回答の割合も、2021年度は7割近くにまで回復しました。

今後も学生の声に耳を傾け、教職協働で適切に対応していく所存です。

(問) 大学指定の教科書のなかに初版から十数年以上経過しているものもある。国際情勢は日々変わっているにも関わらず、なぜこのような古い教材を使用するのか。

(答) 一般に、初年次等の初学者については、基礎理論を体系的に学ぶことから、特に古典などの場合、また定評のあるもの等の場合、教科書の発行から年月の経っている教科書を用いる場合も少なくないと考えられます。しかし、本学の先生方は、そうした基礎理論を学ぶ際にも、その理論が現代社会にどう生きているのか、あるいはどう繋がっているのかを示すプリントなどを用いて、授業を受ける学生に教育効果の高い授業をしていただいていると承知しています。

また、年次進行とともに、教科書を考え方の一つの柱として、学生がWebや直近論文など最近の情報を調査・探求してレポート発表を行うような授業運営となっていると思います。単に大学指定の教科書に発行から年月の経っているものが多いからと言って、授業が日々変わる国際情勢を踏まえていないということはないと考えています。

私は第一学年の保護者の方々とお話をさせて頂いたのですが、初めての大学生活に多くの不安を抱えていたが、同学年の保護者の方々と並びに父母会役員との交流を図ることで不安を和らげることができた、というお言葉を頂きました。また、当方からも父母会の活動内容をお伝えすることができ、大変有意義な機会であったことば言うまでもございません。

私も父母会役員一同は、学生の皆さんがより良い環境で学生生活を送れるために微力ながらも手伝いをさせていただきたいと思っております。つきましては、引き続きまして、皆様方の父母会活動へのご理解ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

編集後記

五月二十八日土曜日、二〇二一年度二松学舎大学父母会定期総会を開催いたしました。関係各位のご協力のお陰をもちまして滞りなく終了することができました。深くお礼を申し上げます。

保護者の皆様より、事前に、定期総会開催の際には同学年の父母の方々と並びに父母会役員との懇談を希望する旨のご要望が寄せられておりましたため、定時総会后、各学年に分かれ、三〇分ほどではございましたが、懇談の機会を設けて頂きました。